

2

岡山市立オリエント美術館

OKAYAMA MUNICIPAL MUSEUM OF ORIENTAL ANTIQUITIES

所在地——— 岡山市天神町 9-31

建築主——— 岡山市

設計者——— (株)岡田新一設計事務所

施工者——— 株式会社 竹中工務店
株式会社 松本組

竣工——— 昭和54年 3月

Location——— Okayama City

Owner——— Okayama City

Design——— Shin'ichi Okada, Architect and Associates

Contractors——— Takenaka Komuten Co., Ltd.
Matsumoto Gumi, Ltd.

Date of Completion—— March, 1979

概要

建築概要

敷地面積 1,785 m²

建築面積 1,386 m²

延床面積 4,336 m²

構造規模 鉄筋コンクリート造

地下1階, 地上3階, 塔屋1階

仕上げ概要

外装 屋根: アスファルト防水, 軽量コンクリート金ゴテ押え 外壁: 2丁掛リブ付き磁器質タイル 建具: ブロンズ⑦ 1.5黒染仕上げ, アルミ2次電解着色

内装 1階ホール 床: 大理石(トラバーチン) F仕上げ 壁: コンクリート打放しBH防汚塗装 天井: 打込み模様タイル/展示室 床: フェルト下地じゅうたん敷き 壁: コンクリート打放しBH防汚塗装 天井: PB⑦12下地, 岩綿吸音板⑦12AEP吹付け

設備概要

空調 方式 機能別セントラルダクト方式(4系統) 熱源: 冷温水発生機

昇降機 エレベーター1基

消火 スプリンクラー, 屋内消火栓, ハロンガス消火, 連結送水管, 消火器

郡 菊夫 Kikuo Koori
岩崎 孝彦 Takahiko Iwasaki
吉成 武 Takeshi Yoshinari

この美術館をみて、岡山市は貴重な財産をつくったものだと思った。白いタイル貼りの折り重なるような壁で、囲みをつくったように見えるこの建築は、喧騒の幹線道路に面して敷地いっぱいに建っているのだからこそ、生きているようである。さして広くないエントランスホールを通過して、歩建物の中に踏み込むと、神々しいばかりの空間が広がっていくのである。そこには妙なる竖琴の音が静かに響いてきそうだし、壁の向こうから妙なる美女が出現してきそうでもある。

この空間には詩がある。ドラマを感じる。それは素朴なしかし晴やかな、そして厳粛な詩である。

学校法人岡山学園理事長安原真二郎氏が長年にわたり情熱を傾けて収集したオリエント美術品2,000点を、岡山市へ寄贈されたことを契機として、この美術館建設は

じまっている。この貴重なオリエント美術品の展示収蔵を第一の目的とし、なお市民の教育の場、学術文化の向上に寄与することを目的とした公共施設として、美術館資料に関する講演会、学習会等をも事業とする積極的な姿勢をみても、まれにみる充実した美術館であるといえよう。

この敷地にオリエント美術の展示館を建設することになるまで、いくつかの変遷があったと聞く。この地にあった既存建物の再利用計画などもふくめ、設計には延3年間を費やしたと聞く。その間の設計者の収集品との語らい、そしてオリエント美術への探究による建築化が、ここに結集されているのであろう。それはただ単なる平面的な流動動線のみで走る展示室の構成と違い、ここには収蔵されていた美術品の目的空間が作り出されており、それが精密に計算された演出空間になっているのである。手をかけるよさを追求した建築をつくりたい、と

provision of a place for cultural and artistic education and locations for lectures and study courses on art and related subjects.

The site underwent numerous transformations before being chosen as a home for the museum. At one time, there was even talk of remodeling existing buildings and using them to house the Yasuhara collection. During the project's three years, the designer carefully studied not only the works to be displayed in the museum, but also oriental art in general. His design reveals the extent of his research, since the nature of each object is carefully incorporated in the space it occupies. Throughout the interior it is possible to sense the architect's fervor and his desire to produce a building that shows

いう設計者の意志と情熱のあくなき追求が、内部空間の各所に見渡せるのである。天蓋から差し込まれる光が、コンクリート打放し切り仕上げという施工上くせものの素材を、美しくきわだたせているし、ペルシャのモザイクタイルを想わせる彩釉ボーダータイルの打込み天井も、豊かな味わいをつくり出している。美術品は額縁の中に収まらず、その自然な環境の中に溶け込んでいくようである。

施工者も、設計者のいう現在忘れかけている「手をかけるよさ」の追求に共感したのだろうか、現代人の根性を見せるように、献身的にこの難しい仕事をこなしている。長年この美術品を守ってきた山本遺太郎氏を館長とし、建設計画の当初から、企画者側と設計者の一体となった情熱に、施工者側のエネルギーが加わってできた優れた建築であると思う。

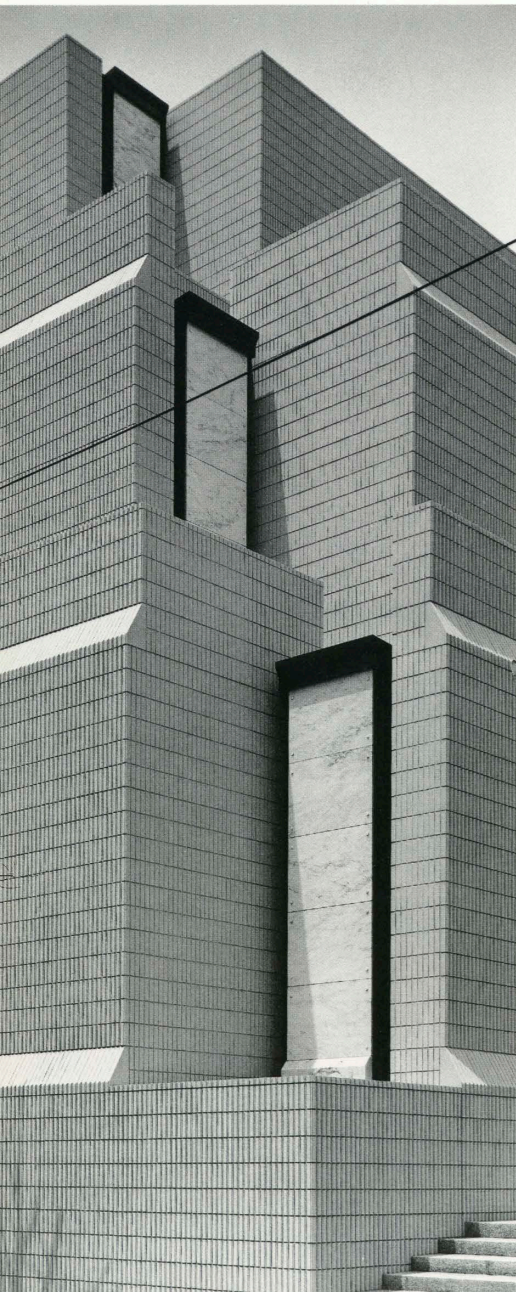
traces of the work of human hands.

Not confined to frames or cases, the art objects live in their own spaces, enriched by such devices as chipped-concrete wall surfaces, which vary in mood with the changing light that filters down from the skylight above, and the romantic mood of the glazed ceiling-border tiles, which invite comparisons with Persian mosaics.

Sympathy with the architect's belief in handwork inspired the contractor to devote himself entirely to carrying out this difficult project. The fervor and cooperation of Itaro Yamamoto, long the custodian of the Yasuhara collection, and the designer, plus the energy of the contractor, make this building an outstanding success.



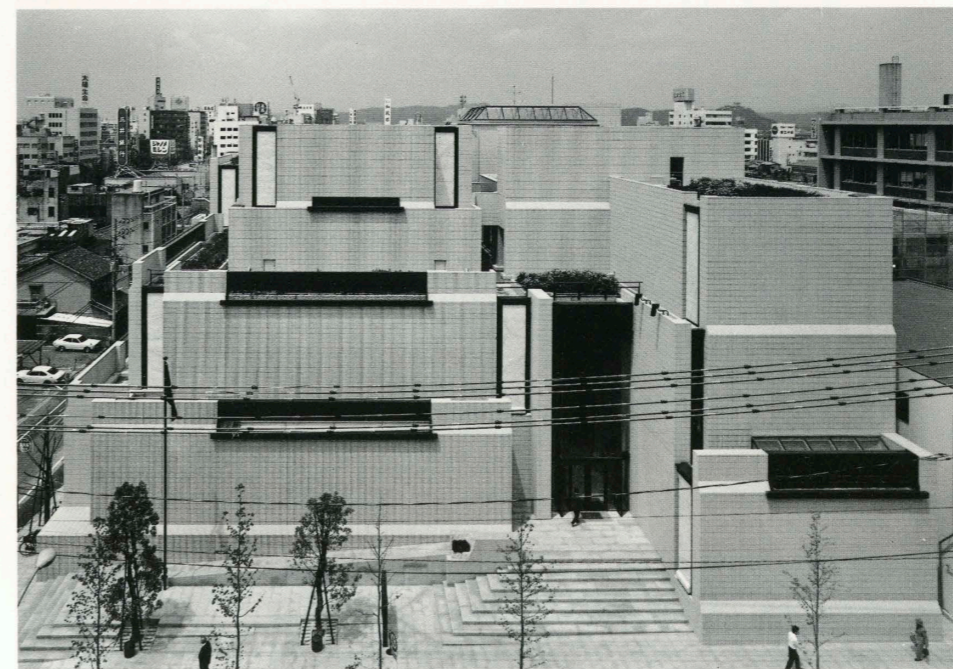
東南の角部分 Corner of the southeast.



エントランス部分 Entrance.



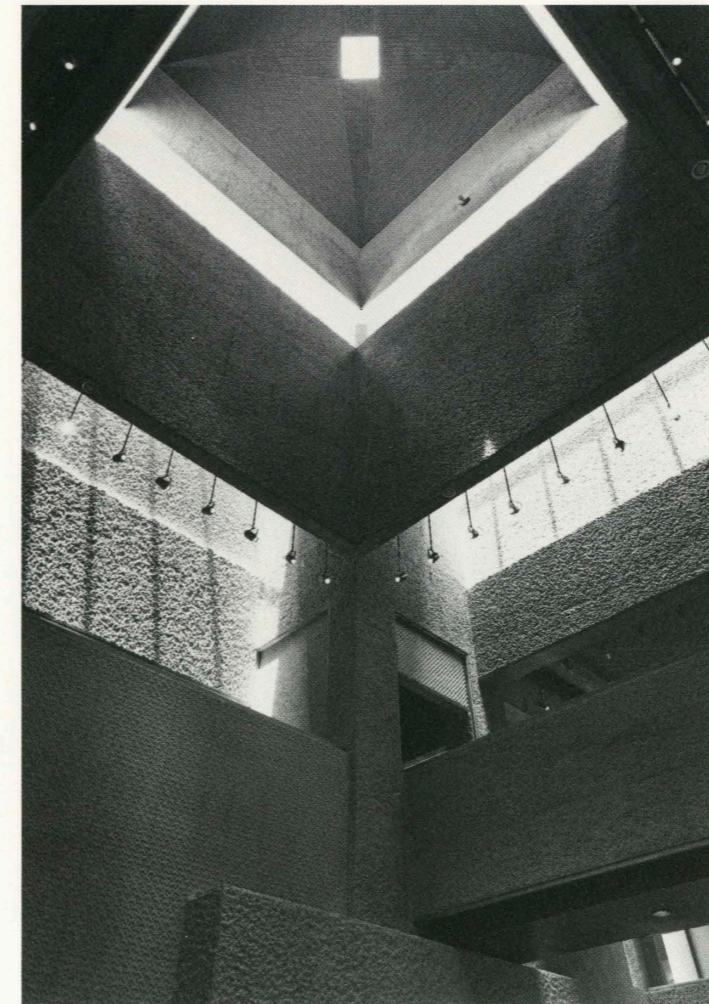
外観見上げ Upward view of the exterior.



全景 General view.



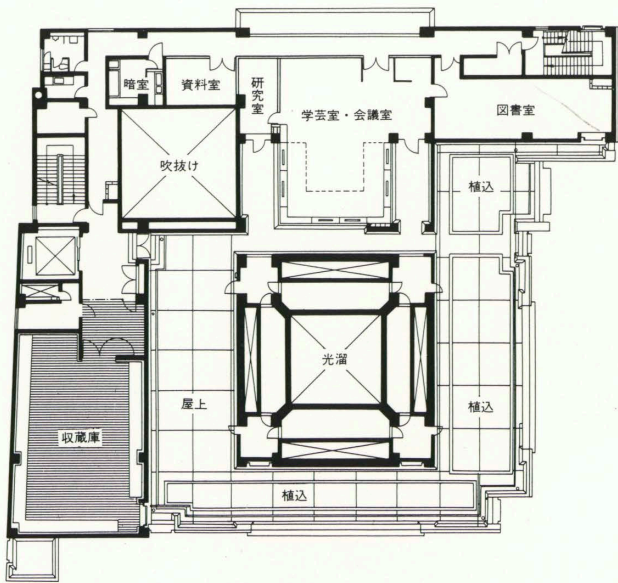
2階展示室への階段 Staircase to the second floor.



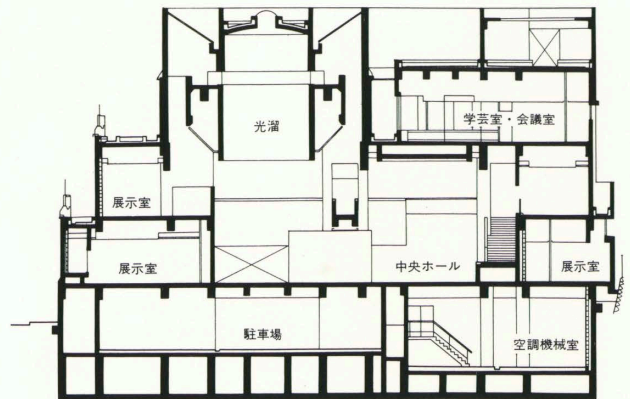
中央ホール吹抜け見上げ Upward view of the central hall.
←中央ホール Central hall.



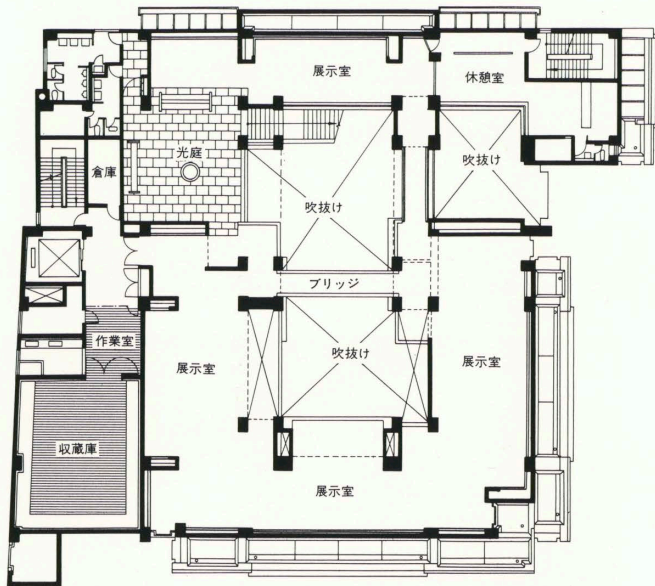
光庭 Light court.



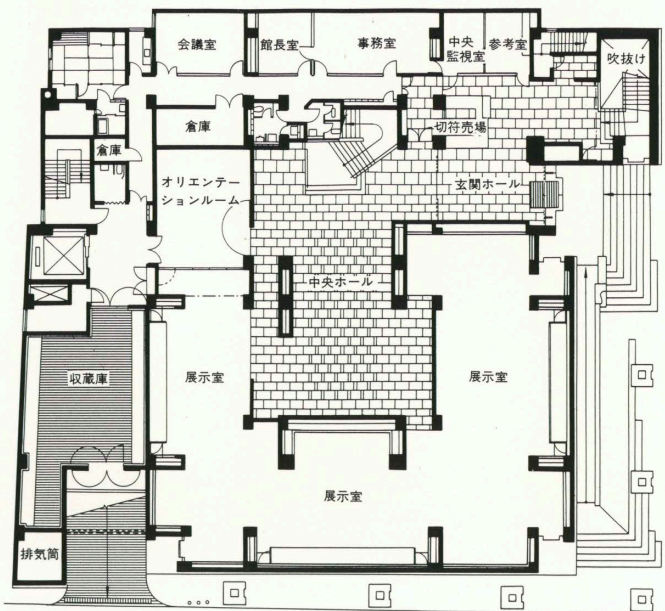
3階平面



断面



2階平面



1階平面